

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	福岡城跡復元整備事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局史跡整備活用課	根拠法令	文化財保護法		本市を特徴づける歴史的な文化資源を磨き上げ本市の観光・集客の核とするため
開始年度	平成26年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	成果(終期・継続検討)
	国史跡福岡城跡			
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか	福岡城跡を魅力ある歴史資源として磨き上げ、観光・集客の拠点とするとともに、歴史的価値を後世に確実に継承する。また、使える身近な史跡として積極的な公開・活用を図る。	歴史資源としての磨き上げのため、「国史跡福岡城跡整備基本計画」に基づいた整備・活用を行った。史跡の整備の方面では、令和2年度に引き続き福岡城祈念櫓石垣の解体修理工事を行った。また潮見櫓の復元に向けて、櫓石垣の整備工事を行った。併せて福岡城跡の歴史的資源・観光としての魅力を発信するため、SNSを活用して、石垣修理等の福岡城跡整備状況やイベント開催情報等について積極的に情報発信を行った。同時に、歴史系雑誌等へ広告を掲出し、福岡城の魅力と整備基金について紹介を行った。また市民に、文化財に直接関わってもらい、福岡城跡を身近に感じてもらうため、城石垣の除草ボランティアイベントを実施した。	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 「国史跡福岡城跡整備基本計画」の計画事業の完了
	福岡城跡を魅力ある歴史資源として磨き上げ、観光・集客の拠点とするとともに、歴史的価値を後世に確実に継承する。また、使える身近な史跡として積極的な公開・活用を図る。			

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)								
	平成26年度策定の国史跡福岡城跡整備基本計画にそった整備・活用事業を推進する。市民・観光客がわかりやすく楽しめる環境を整え、広く福岡城の魅力を伝えていく。	福岡城が広く周知されるとともに、整備事業に対する理解・共感を得る。また、多くの市民・観光客が訪れ、活発な公開活用が行われる。	公開活用事業の推進とともに来訪者が増加し、史跡としての福岡城跡の認知度も向上する。また、福岡城整備基金の寄付額が増加する。	福岡城が都心部における観光・集客の拠点となる。また、市民の誇りとしてアイデンティティ形成の核となり、郷土の歴史を知る場となる。								
活動の指標	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
	福岡城むかし探訪館及び三の丸スクエアの来館者数	年度	R2年度	R3年度	R4年度			最終年度	年度	R2年度	R3年度	R4年度
	目標		130,000.0	130,000.0		R 年度	福岡城整備基金の寄付額(千円)	目標	25,000.0	25,000.0		R 年度
	実績		29,606.0	27,606.0	130,000.0			実績	5,383.0	17,740.0	25,000.0	25,000.0
	達成率		22.8%	21.2%				達成率	21.5%	71.0%		
	目標					R 年度		目標				R 年度
	実績							実績				
	達成率							達成率				

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 5-1-1 再 1-4-2 5-2-1	①入込観光客数 (R5年度目標値:2,000万人) ②入込観光客数(宿泊) (R5年度目標値:250万人)
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている	
施策	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ	行政運営プラン
事業群	福岡の歴史資源の観光活用	
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)		
令和3年度決算額(見込額)		
歳出合計	175,906	
歳入	特定財源	164,795
	一般財源	11,111
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R2 R4	
歳出合計	144,703 122,634	
歳入	特定財源	141,877 94,188
	一般財源	2,826 28,446

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	歴史文化を活かした観光振興事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局地域観光推進課	根拠法令	なし		福岡城・鴻臚館や国宝金印、元寇防塁など、貴重な歴史・文化資源を観光資源としてさらに磨き上げ、地域の魅力向上と集客促進を図るエリア観光の推進に取り組み、地域経済の活性化を図ることを目的として開始した。
開始年度	平成29年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市民及び市外からのインバウンドを含む観光客	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館の管理運営を行い、観光客の受入環境を整備するとともに、体験型コンテンツやイベントの拠点、飲食物販施設として活用 ・三の丸スクエアや福岡城むかし探訪館において着物体験や乗馬体験などの体験型コンテンツを実施 ・デジタル技術によって復元された福岡城を楽しむAR体験コンテンツ運用を実施 ・福岡城内及び周辺で活動する事業者との連絡会を開催 ・博物館の企画展に合わせた、エリア内民間事業者との特別プラン造成の実施 ・文化財を活用した民間イベントの開催支援を実施 ・福岡城、鴻臚館のウェブサイトのリニューアルを実施	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか ・福岡市内への観光客が増加し、福岡市内の地域経済の活性化が図られるとともに、福岡市民のシビックプライドの醸成が達成できている状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 福岡市内の歴史資源や文化財、文化施設、商店街、自然など、地域における観光資源の魅力を発掘し、それらを面で繋いだ周遊コースの形成を図るなどの取組みを行うことで、観光地としての魅力向上と集客促進を行い、地域経済の活性化を図っていくもの。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	・エリア内の観光施設の管理運営 ・歴史資源のユニークベニューとしての活用 ・エリア内でのイベントの実施や招致 ・エリア内での体験型コンテンツの情報発信	・歴史資源及び周辺エリアの認知度が増加、エリアの魅力が伝わる。 ・エリア来訪者の満足度が向上し、口コミ等の拡散が促進される。 ・エリア内で観光客を対象にした民間事業者の参入が進む。	・エリア内の観光客の来訪が増加する。 ・エリア内の回遊性が高まり、滞在時間が増加する。 ・福岡市内の観光スポットとしてにぎわいが生まれる。	・福岡市内への観光客の増加 ・福岡市内の地域経済の活性化 ・福岡市民のシビックプライドの醸成
	活動の指標	成果の指標(KPI)		

指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)
		R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
民間事業者からの事業提案数	目標	10.0	13.0	13.0	R 年度	
	実績	12.0	10.0		-	
	達成率	120.0%	76.9%			
	目標				R 年度	
	実績					
	達成率					

指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)
		R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
福岡城むかし探訪館来館者数	目標	55,000.0	55,000.0	55,000.0	R 年度	
	実績	12,142.0	13,015.0		-	
	達成率	22.1%	23.7%			
三の丸スクエア来館者数	目標	75,000.0	75,000.0	75,000.0	R 年度	
	実績	17,464.0	12,162.0		-	
	達成率	23.3%	16.2%			

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主 再	5-1-1 -	施策 入込観光客数 (R4年度目標値: 2,300万人) 外国人入国者数 (R4年度目標値: 320万人)
分野別目標		磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている	施策成果指標
施策		観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ	
事業群		福岡の歴史資源の観光活用	
行政運営プラン			
取組方針		なし	
推進項目			

事業費(千円)	
令和3年度決算額(見込額)	
	歳出合計 24,741
歳入	特定財源 315
	一般財源 24,426
前年度決算額・翌年度予算額	
年度	R2 R4
	歳出合計 28,447 26,426
歳入	特定財源 713 318
	一般財源 27,734 26,108

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	博多旧市街プロジェクト		事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局地域観光推進課	根拠法令	なし
開始年度	平成29年度	行政計画	なし
			背景 天神ビッグバン、ウォーターフロントNextと歴史が息づく博多部の対比を考えながら街づくりを推進してきた一方で、博多部の歴史・伝統・文化の魅力が十分に認知されておらず、改めて、自分たちが住んでいる地域に興味を持ち、誇りに思う気持ちを育てながら、観光資源としてのポテンシャルを高め、市民や観光客にしっかりと伝える必要があるため。

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市民及び市外からのインバウンドを含む観光客
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 天神ビッグバンと対をなすプロジェクトとして、中世最大の貿易港湾都市であった博多部において、価値ある資源をストーリーとまちなみでつなぎ、「博多旧市街」エリアとして、市民や観光客に認知し楽しんでもらえる環境を整え、福岡観光の定番化を図る。

実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 福岡観光の定番化に向けた取り組みを地域や民間事業者と連携のうえ実施した。 ＜観光地としての価値を高める取り組み＞ ・エリアの特有性を活かした観光商品の登録制度である「博多旧市街セレクション」の運用及び官民連携によるプロモーションを実施 ・副駅名(「博多旧市街口」)の設定を契機とした地下鉄祇園駅構内の博多旧市街装飾、記念乗車券の発売 ・寺社保有の貴重な文化財等を活用した観光プログラムを制作 ＜安全安心に楽しめる環境整備＞ ・まちなみの雰囲気醸成するための灯籠設置 ・音声ARを活用したまち歩きガイドコンテンツのサービス開始と機能拡充
----------	---

成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 歴史・伝統文化など、エリアの特性を活かしたコンテンツの充実が図られるとともに、モデルルート的美装化やまちなみ形成にあわせた店舗集積が進み、趣あるおもてなしの雰囲気醸成や賑わいが創出されることにより、主要な観光地として観光情報誌に掲載されるなど、福岡観光の定番として定着すること。 また、地域への集客や消費が促進されることにより得られる経済効果が地域の隅々まで波及するとともに、「我が町の誇り」として、シビックプライドが醸成されることで、エリア観光の自覚化が図られる状況となれば、博多旧市街での取組をモデルとして他のエリアへの拡大を図っていく。
-------------	--

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウト (どんな活動を行うのか)	②結果アウト (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	地域、民間事業者等との連携をさらに強化しながら、博多旧市街の認知向上や福岡観光の定番化に向け、下記のことに取り組む。 ＜博多旧市街フェスティバルの拡充＞ ・期間延長や新規コンテンツの実施 ・SNS等を活用した情報発信強化(ブランディング) ・交通機関等と連携した装飾や動画放映等のプロモーション ・博多旧市街セレクションの拡充(沿道の賑わい創出) ・石畳風舗装等の道づくり ・灯籠の設置などによるまちなみの雰囲気醸成 ・音声ARを活用したまち歩きガイドコンテンツの拡充 ＜文化観光の振興＞ ・寺社保有の貴重な文化財等の観光活用検討	○地域、民間事業者等と連携・協力体制が強化される。 ○フェスの内容充実、期間延長により、新規・リピーターが増加し、認知向上に繋がる。 ○若年層やF1層の誘客により、SNSでの情報拡散や地域への経済波及効果に繋がる。 ○まちなみの雰囲気醸成することで、旧市街の見える化に繋がる。 ○単なるまち歩きだけではなく、音声ARや多言語ガイドを組み合わせることで観光客の期待度と満足度の向上に繋がる。 ○「博多旧市街＝観光地」というイメージの定着。 ○観光地のイメージが定着することで、多くのメディア、雑誌等に博多旧市街が掲載され、新たな民間事業者の参入に繋がる。	○地元住民やエリア内で活動する民間企業のシビックプライドの形成やモチベーションの向上。 ○趣のあるまちなみや体験型コンテンツを見せることで、観光客がエリアへの関心を持つ。 ○まち歩きをさらに楽しめるコンテンツを用意することで、観光客の満足度が向上し、リピーターの確保に繋がる。 ○観光地として定着することで、新規事業者の参入に繋がり、エリア内の経済活性化に繋がる。	○地域、民間事業者等の主導で博多の特性を活かした観光施策が展開され、エリアの観光ポテンシャルが向上する。 ○福岡観光の定番地＝博多旧市街となる。 ○博多部の歴史、伝統文化が際立ち、福岡市の魅力がさらに高まる。 ○観光客の満足度向上により、滞在時間の延長やリピーターの確保に繋がり、地域の経済活性化が図られる。 ○入込観光客数の増加に繋がる。

指標の内容	実績			目標		成果の指標(KPI)
	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
活動の指標 地元・民間・行政などの関係者と連携した新規観光施策実施数	目標	5.0	5.0	5.0	R 年度	-
	実績	4.0	4.0			
	達成率	80.0%	80.0%			
活動の指標	目標	-	-	-	R 年度	-
	実績	-	-			
	達成率	-	-			

指標の内容	実績			目標		成果の指標(KPI)
	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
「博多町家」ふるさと館来館者数	目標	200,000	161,000	161,000	R 年度	-
	実績	34,206	43,369			
	達成率	17.1%	26.9%			
福岡アジア美術館来館者数	目標	400,000	412,000	412,000	R 年度	-
	実績	135,690	202,186			
	達成率	33.9%	49.1%			

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 5-1-1 再 -	施策成果指標 入込観光客数 (R4年度目標値:2,300万人) 外国人入国者数 (R4年度目標値:320万人)
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている	
施策	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ	
事業群	福岡の歴史資源の観光活用	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計			10,025
歳入	特定財源		0
	一般財源		10,025
前年度決算額・翌年度予算額			
年度	R2		R4
歳出合計	19,536		40,106
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	19,536	40,106

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	海辺を活かした観光振興事業			事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局地域観光推進課	根拠法令	なし	福岡市は都市的な魅力と豊かな自然環境が調和したコンパクトな都市として国内外から高い評価を得ている。その豊かな自然環境を育む農山漁村地域の特性・強みを活かし、観光振興と地域活性化を進めるもの。
開始年度	令和2年度	行政計画	なし	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	実施内容(手段)	成果(終期・継続検討)
	市内外からの観光客(インバウンド含む)		
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか
	豊かな自然環境を有する農山漁村地域の志賀島・北崎エリアにおいて、海辺の観光周遊コースの形成を図る。		

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウト (どんな活動を行うのか)	②結果アウト (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウト (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウト (その結果、市としてどうなるのか)									
	<ul style="list-style-type: none"> ○観光案内板の設置などサイクルーツーリズムの推進。 ○新たな観光コンテンツ造成による滞在型プランの拡充。 ○地元や事業者との連携による、エリアの特色を活かした立ち寄りスポットづくりの検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内外からの観光客が、アクセス性を含めエリアの魅力を確認し、SNS等での発信が増加する。 ○市内外からの観光客による、エリアでの消費が増加する。 ○立ち寄りスポットづくりの方向性(場所・機能等)について、エリア内の地域、事業者との合意形成が図れ、立ち寄りスポットが造成。 	<ul style="list-style-type: none"> ○志賀島・北崎エリアへの市内外からの観光客(インバウンド含む)が増加している。 ○観光客の志賀島・北崎エリアでの滞在時間が長くなっている。 ○地元や事業者が抱える課題(交通混雑等)が解消されるとともに、観光客の満足度や回遊性が高まり、新たに訪れる方やリピーターの確保に繋がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれのエリアの特色を活かしたブランディングが確立し、志賀島・北崎エリアへの来訪を目的として、福岡を訪れる人が増加する。 ○国内外からの旅行者が増加し、地域の賑わいが増す。 									
活動の指標	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標			
		年度	R2年度	R3年度	R4年度		最終年度		年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
	市観光情報サイト「よかなび」PV数	目標	—	50,000	66,000	R 年度	入込観光客数	目標	23,000,000	23,000,000	23,000,000	R4年度	
		実績	26,954	59,926	—	—		実績	11,260,000	集計中	—	23,000,000	23,000,000
		達成率	—	119.9%	—	—		達成率	49.0%	—	—	—	—
		目標				R 年度	エリア来訪者推計人数(1~12月)	目標	—	—	181,300	R 年度	
		実績				—		実績	—	164,761	—	—	—
		達成率				—		達成率	—	—	—	—	—

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 5-1-1 再 —	施策成果指標 入込観光客数 (R4年度目標値:2,300万人) 外国人入国者数 (R4年度目標値:320万人)
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている	
施策	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ	
事業群	福岡の歴史資源の観光活用	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)		
令和3年度決算額(見込額)		
歳入	歳出合計	44,214
	特定財源	0
	一般財源	44,214
前年度決算額・翌年度予算額		
歳入	年度	R2 R4
	歳出合計	2,184 65,097
	特定財源	0 0
	一般財源	2,184 65,097

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	鴻臚館整備・活用事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局史跡整備活用課	根拠法令	文化財保護法		本市の観光戦略の一環として、歴史的文化遺産を磨き上げ、観光・集客の核とするため。
開始年度	令和元年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	成果(終期・継続検討)
	国史跡鴻臚館跡			
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか	鴻臚館跡展示館改修工事 ・鴻臚館跡展示館空調設備更新工事 また、併せて鴻臚館跡の歴史資源としての魅力の周知を進めるため、SNSを活用した情報発信や民間事業者と連携し、飲食を伴うコンサートの実施など展示館のユニークベニューとしての活用を実施した。	平成30年度策定の「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」に基づき、鴻臚館跡展示館の改修を実施した。	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか
	鴻臚館跡を適切に保存・整備し、その歴史的価値を確実に次世代に継承すると共に、多くの市民や観光客を引きつける場所にする。 また、使える身近な史跡として積極的な公開を図る。			

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)		③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)		④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)						
	<ul style="list-style-type: none"> 鴻臚館跡の復元・整備の実施 鴻臚館の歴史的価値や史跡としての魅力の発信 		<ul style="list-style-type: none"> 鴻臚館跡が整備され、歴史的景観が創出される。 多様な主体による活用事業が増加する。 		<ul style="list-style-type: none"> 史跡鴻臚館跡の認知度の向上 鴻臚館跡の歴史的価値の向上 来訪者の増加 		<ul style="list-style-type: none"> 市民の誇り、アイデンティティーの形成 歴史観光の拠点となる。 郷土の歴史を知る場となる。 						
活動の指標	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標			
		年度	R2年度	R3年度	R4年度			最終年度	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
活動の指標	整備事業数	目標	1.0	3.0	1.0	R10年度	鴻臚館跡展示館の入館者(年間)	目標	33,000.0	15,000.0	17,000.0	R10年度	
		実績	1.0	2.0				実績	11,011.0	12,162.0			60,000.0
		達成率	100.0%	66.7%				達成率	33.4%	81.1%			
活動の指標		目標			R年度		目標			R年度			
		実績					実績						
		達成率					達成率						

基本計画				事業区分	重点
施策コード	主	5-1-1		①入込観光客数 (R5年度目標値:2,000万人)	施策成果指標
	再	1-4-2	5-2-1		
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている				②入込観光客数(宿泊) (R5年度目標値:250万人)
施策	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ				
事業群	福岡の歴史資源の観光活用				
行政運営プラン					
取組方針	なし				
推進項目					

事業費(千円)		
令和3年度決算額(見込額)		
歳出合計	35,131	
歳入	特定財源	32,317
	一般財源	2,814
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R2	R4
歳出合計	22,432	60,992
歳入	特定財源	11,000
	一般財源	11,432

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	MICE誘致推進事業（消、重点）、MICEワンストップ体制の運営（重点）、【宿泊税】ポストコロナMICE誘致強化事業、【宿泊税】ポストコロナMICE支援事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局観光コンベンション部MICE推進課	根拠法令	なし		MICEは都市の魅力を発信し、裾野の広い関連産業の振興につながるとともに経済波及効果が高く、文化・スポーツ・芸術等の発展にも寄与することから、長期的・政策的に振興を図ることとして開始。
開始年度	平成13年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか MICEの主催者・参加者	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・オンライン等を活用したセールス活動や誘致活動の実施 ・オンラインで海外の展示会・見本市等へ出展 ・市と(公財)福岡観光コンベンションビューロー、(一財)福岡コンベンションセンターの実務者レベルで会議を開催し、コロナ禍におけるMICEの動向や誘致状況等について情報共有を実施 ・オンラインとリアルを組み合わせた「ハイブリッド型」MICEへの開催支援や安全対策支援、MICE施設へ「ハイブリッド型」MICEの受入環境整備への支援 ・Meeting Place Fukuokaの体制を強化	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか MICE開催件数増加による市への経済波及効果を増やすため、事業を継続していく。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか MICEの主催者が福岡市の魅力を知り、福岡を開催地として選択する状態。 また、福岡で開催されたMICE主催者・参加者が福岡の魅力に触れ、個人旅行で再来福したり、広く福岡の魅力を発信する状態。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)						
	・MICE誘致のためのリサーチ、マーケティング ・MICE主催者・参加者への支援や歓迎演出	・MICE誘致対象の発掘 ・MICE開催地としての福岡の魅力向上	・MICE開催地として福岡市を選択する主催者の増加 ・福岡で開催されたMICE主催者・参加者が福岡の魅力をを感じる	・福岡市のMICE都市としての認知度向上 ・MICE開催件数増加による市への経済波及効果上昇 ・MICE主催者・参加者への再来福による経済波及効果上昇						
	指標の内容	実績	目標	指標の内容	実績	目標				
活動の指標	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
	目標	—	—	—	R 年度	国際コンベンション開催件数 (1月～12月での数値)	増加	増加	増加	R5年度
	実績	—	—	—	—	実績	15	0	増加	増加
	達成率	—	—	—	—	達成率	—	—	—	増加
	目標	—	—	—	R 年度	国内コンベンション誘致件数	増加	増加	増加	R5年度
	実績	—	—	—	—	実績	86	118	増加	増加
	達成率	—	—	—	—	達成率	—	—	—	増加

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	5-4-2	国際コンベンション開催件数 (R6年度目標値:313件)
	再	—	
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		国内コンベンション開催件数 (R6年度目標値:160件)
施策	交流がビジネスを生むMICE拠点の形成		
事業群	MICE誘致の推進		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計	91,549		
歳入	特定財源	15,518	
	一般財源	76,031	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度	R2	R4	
歳出合計	43,722	157,322	
歳入	特定財源	79,000	
	一般財源	78,322	

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	九州広域連携誘客事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局観光マーケティング課	根拠法令	福岡市観光振興条例		九州の自治体では、国内外で認知度が高く、九州のゲートウェイ機能を担う本市と連携し、本市発着の広域周遊観光のなかで自らの都市へ誘客したいという強いニーズがある。こうしたなかで、九州のゲートウェイ都市である本市が九州の自治体のリーダーとなって、各自治体への誘客を促進させることで、本市及び九州の各自治体における観光需要の早期回復に貢献していく
開始年度	R3年度	行政計画	観光・MICE推進プログラム		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡空港への直行便がある海外市場や世界水泳マスターズ大会の参加が多い海外市場	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 九州のゲートウェイ都市として、魅力ある観光コンテンツを有する九州の自治体等と連携し、周遊ルートの魅力発信等に取り組み、市発着の九州の広域観光を推進する。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 観光に意欲的な九州の自治体とのネットワークを深めながら、各自治体が求めるターゲットごとに、魅力的な観光コンテンツを連携させ、歴史・自然・食など、テーマを設定した九州周遊モデルコースを継続してプロモーションを行う。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 福岡や九州の認知度を高めるとともに、コロナによる渡航規制が解除された際に福岡・九州を旅行先に選んでいただけの状態にする				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	・訪日メディアやインフルエンサーの招請・情報発信 ・現地旅行会社に対するオンラインセミナーの実施 ・現地市場のニーズ把握 ・世界水泳をターゲットとした九州観光特設サイトの構築、広告配信	福岡市・九州の観光の魅力を発信する	福岡市の魅力が訴求され、来福意欲が醸成される	福岡市・九州への来訪意欲が高まり、市内に訪れる観光客や観光消費額の増加につながる
	活動の指標	成果の指標(KPI)		

指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)
		R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
プロモーション件数	目標	-	5	5	R 年度	-
	実績	-	5		-	
	達成率	-	100.0%			
外国人入国者数	目標	-	-	-	R 年度	-
	実績	320,100	6,105			
	達成率	-	-			

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主 再	5-6-1 -	施策成果指標 市内宿泊者数(延べ) R1n(現状): 978万人 ⇒R6n: 900万人
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	国内外への戦略的なプロモーションの推進		
事業群	シティプロモーションの推進		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳入	歳出合計		4,662
	特定財源		0
	一般財源		4,662
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R2	R4
	歳出合計	0	10,100
	特定財源	0	0
一般財源	0	10,100	

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	クルーズ船誘致事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か				
所管課	経済観光文化局クルーズ課	根拠法令	なし		海外船社によるアジアクルーズ市場開拓が進むについて、中国・韓国と近接する博多港のクルーズ寄港地としての需要が増大。客船寄港による経済効果が大きいことから、博多港の強みを活かした積極的な誘致活動が必要となっていた。				
開始年度	平成21年度	行政計画	なし						

事業概要

対象	誰(何)を対象として行うのか 船社・旅行代理店等	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ●多様なクルーズ客船の誘致 ・オンラインでの海外コンベンションに参加によるクルーズ港としての博多港のPR活動。 ●博多港発着クルーズの振興 ・新型コロナウイルスの影響により実施見送り。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか クルーズ客船の誘致による市への経済波及効果を増やすため、今後も事業を継続していく。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか クルーズ港としての博多港の認知度・イメージを向上し、北東アジアのクルーズ市場における博多港の地位を確立し、クルーズ客船の寄港増加・定着化につなげる。				

ロジックモデル・指標の達成度

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	<ul style="list-style-type: none"> ・船社、旅行代理店等訪問による誘致活動 ・海外コンベンション等での博多港PR ・港での受入体制充実 ・市民クルーズ、市民船内見学会等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・船社、代理店等の寄港地選定権限のあるキーパーソンに、クルーズ港としての博多港が認知される。 ・乗客、乗員の博多港寄港時の満足度が向上する ・博多港へのクルーズ船寄港に対し、市民の認知度や理解度が向上する 	<ul style="list-style-type: none"> ・博多港がクルーズ寄港地に選定される ・博多港のクルーズ港としてのイメージが向上する ・博多港発着クルーズの市場が拡大する 	<ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ客船寄港及び乗客・乗組員による市内への経済効果が見込まれる ・クルーズ拠点港として国内外へ博多港をPRすることができる
	活動の指標	成果の指標(KPI)	成果の指標(KPI)	成果の指標(KPI)

指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)
		R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
海外クルーズコンベンションへの参加回数	目標	1.0	1.0	年1~2回	R年度	-
	実績	1.0	1.0		-	
	達成率	100.0%	100.0%			
	目標				R年度	
	実績					
	達成率					

事業区分		重点	
基本計画			
施策コード	主 5-6-2 再 -	施策成果指標	外航クルーズ客船の寄港回数 (R7年度目標値: 250回)
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	国内外への戦略的なプロモーションの推進		
事業群	クルーズ客船誘致の取組み		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳入	歳出合計	1,536	
	特定財源	0	
	一般財源	1,536	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R2	R4
	歳出合計	460	7,388
	特定財源	0	0
一般財源	460	7,388	

事業区分		重点	
基本計画			
施策コード	主 5-6-2 再 -	施策成果指標	外航クルーズ客船の寄港回数 (R7年度目標値: 250回)
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	国内外への戦略的なプロモーションの推進		
事業群	クルーズ客船誘致の取組み		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳入	歳出合計	1,536	
	特定財源	0	
	一般財源	1,536	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R2	R4
	歳出合計	460	7,388
	特定財源	0	0
一般財源	460	7,388	

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	クルーズ船観光客の受入調整			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局クルーズ課	根拠法令	なし		寄港地観光の訪問先が固定化する傾向にあり、訪問先周辺における交通混雑や経済効果が見えづらい要因となっているため、訪問先・時間の分散化やFITの振興等によるツアーの多様化・上質化に取り組む。
開始年度	平成28年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・クルーズNAVIシステム(寄港地観光手配予約システム)を活用した訪問先・時間の分散化の検討	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 寄港地観光の分散化による市への経済波及効果を増やすため、今後も事業を継続していく。
	クルーズ客				
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか クルーズ客の満足度が向上するとともに、クルーズ船寄港による経済効果が地域へ広く波及される。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	・クルーズ客用観光バスの訪問先・時間の分散化 ・FIT(訪日外国人個人旅行)の振興等による寄港地観光ツアーの多様化・上質化	・クルーズ客用観光バスの訪問先・時間が分散化する。 ・多様な寄港地観光ツアーが造成される。	・クルーズ客の満足度が向上するとともに、クルーズ船寄港による経済効果が地域へ広く波及される。	・クルーズ客が増加する。	
	指標の内容	実績	目標	実績	
	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
活動の指標	目標	-	-	-	R 年度
	実績	-	-	-	-
	達成率	-	-	-	-
	目標				R 年度
	実績				
	達成率				

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 5-6-2 再 -	施策成果指標 外航クルーズ客船の寄港回数 (R7年度目標値:250回)
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている	
施策	国内外への戦略的なプロモーションの推進	
事業群	クルーズ客船誘致の取組み	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出	合計	842	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	842	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R2	R4
歳出	合計	1,229	1,000
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	1,229	1,000

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	水素リーダー都市プロジェクト(トップマネ含む)			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管課	経済観光文化局グリーンイノベーション戦略担当	根拠法令	なし		平成26年12月の燃料電池自動車の市販開始を契機に、国内外において水素エネルギー・燃料電池の市場拡大と関連分野を含めた新たな市場化が見込まれることから、地場企業を中心に水素エネルギーの産業化を進めることとしたため。	
開始年度	平成26年度	行政計画	なし			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 地場企業を中心とした水素関連企業	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・福岡市は水素社会の実現をめざし、再生可能エネルギーである「下水バイオガス」から水素を製造する、世界初の水素ステーション「福岡市グリーン水素ステーション」を平成26年度に建設し、その水素を「グリーン水素」として活用するプロジェクトを産官学連携で実施した。 ・令和3年度は、「グリーン水素ステーション」での水素製造に関する耐久性確認及びコスト低減の自主研究など、計4件のプロジェクトに取り組んだ。 ・そのうち、令和3年11月には岡山で開催されたスーパー耐久レースで水素エンジン車に水素を供給したほか、FCトラックへの水素供給による輸送実証への支援などを実施した。 ・令和4年2月には、トヨタ自動車と水素社会実現に向けた連携協定を締結した。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 地場企業を中心とした水素関連企業のビジネス拡大や大学との共同研究の増加により、都市の経済成長を図る。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 福岡市で水素関連企業がビジネスに取り組む状態				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	○「福岡市グリーン水素ステーション」の自主研究及び視察対応を行うとともに、市民に対する普及啓発に取り組む。 ○「グリーン水素」の利活用について、水素関連企業などと協議する。	○福岡市の先進的な取り組みが認知されることで、新たな水素利活用プロジェクトが組成される。	○産学官による国プロジェクト等の水素を利活用した取り組みが市内で行われる。(福岡市で水素関連企業がビジネスに取り組む状態)	○地場企業などの水素関連企業のビジネス拡大や大学との共同研究の増加が期待できる。
	活動の指標	成果の指標(KPI)	活動の指標	成果の指標(KPI)

指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)
		R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
国プロジェクト等の新規獲得数	目標	1.0	1.0	1.0	R 年度	
	実績	1.0	1.0		-	
	達成率	100.0%	100.0%			
	目標				R 年度	
	実績					
	達成率					

指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)
		R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
水素利活用プロジェクト数	目標	2.0	2.0	2.0	R 年度	
	実績	4.0	4.0		-	
	達成率	200.0%	200.0%			
	目標				R 年度	
	実績					
	達成率					

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	6-1-1	
	再	-	
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		施策成果指標
施策	産学官連携による、知識創造型産業の振興		
事業群	知識創造型産業の振興		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計		38,477	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	38,477	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		36,404	155,018
歳入	特定財源	63	10,000
	一般財源	36,341	145,018

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局新産業振興課	根拠法令	なし		AI・IoTなどの最新テクノロジーを活用して新しいサービス・製品を開発し、社会課題の解決や生活の質の向上を図る動きが加速しているなか、新たなサービスを生み出していくためには、テクノロジーの核心部分を担うエンジニアが不可欠であるが、その人材の雇用争いが激化している。
開始年度	令和元年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか エンジニア、エンジニアを目指す人	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・エンジニアカフェの運営：エンジニア等からの相談対応、コミュニティの活動支援、イベント開催支援、情報発信、オンラインエンジニアカフェ運営 ・イベント等の開催：セミナー、アワード等の開催 ・賛同企業の募集 ・情報発信：EFCHPによるエンジニアや各コミュニティの活動の情報発信 ・人材育成：学生を対象としたエンジニア育成プログラムの実施 ・国内外へのPR：関連イベントへの出展	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか エンジニアによって生み出される新しいサービス等を通じて福岡の地場中小企業の成長、市民生活の向上が図られる。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 「エンジニアが集まる、活躍する、成長する街、福岡」の実現に向け、エンジニアと福岡市が協力し、エンジニアがここで働きたいと思うような街づくりを目指す				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)						
	・エンジニアカフェを中心としたエンジニアの活動支援 ・イベントの開催やHP、他の媒体を活用した情報発信 ・学生をターゲットにした人材育成	・エンジニアカフェの認知度向上による、エンジニア等の集積 ・コミュニティ活動の活性化 ・地元学生の地場企業への定着	エンジニアが学び成長し、活躍できる機会が増えることで、エンジニアの取り巻く環境が充実し、プロトタイプから起業までを含めたプロダクトの創出が促進される。	次々と生み出される新しいサービス等を通じて、経済成長や市民生活の向上を図っていく。						
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	実績	目標				
活動の指標	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
相談件数	目標	200.0	300.0	470.0	R年度	アウトプット創出件数	目標	-	0.0	R6年度
	実績	253.0	415.0		-		実績	-	0.0	10.0
	達成率	126.5%	138.3%		-		達成率	-	0.0%	20.0
コミュニティ新規参加率	目標	10.0	10.0	25.0	R年度		目標			R年度
	実績	51.0	67.0		-		実績			
	達成率	510.0%	670.0%		-		達成率			

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主 再	6-1-1 -	施策成果指標 コミュニティ勉強会等参加者数 R3n~R6n:3,000人/年
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	産学官連携による、知識創造型産業の振興		
事業群	知識創造型産業の振興		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計		82,184	
歳入	特定財源	40,795	
	一般財源	41,389	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		70,457	92,120
歳入	特定財源	33,528	40,171
	一般財源	36,929	51,949

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	企業立地促進制度の実施			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局企業誘致課	根拠法令	福岡市企業立地促進条例及び同条例施行規則		立地交付金等の企業立地を促進するための施策を実施することにより、本市への産業を集積し、雇用機会の創出、事業機会の増大及び税源の涵養を図ることにより、本市経済活動の活力の維持及び豊かな市民生活の実現を目指して本制度を開始した。
開始年度	平成14年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 国内外の企業等	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 企業立地を促進するための施策として立地交付金を適用することにより、本市へ新たに立地する企業の初期投資を軽減し国内外企業の立地促進を図るとともに、市内既存事業所においても、特定の業種・分野に限り立地交付金を適用し転出防止を図った。 ○交付件数: 36件	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 誘致活動不要で、本市への本社や支社等の拠点設置が進み、定着する状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 本市への本社や支社等の拠点設置を推進し、定着させる。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	・企業訪問・企業面談により、立地支援策等の情報提供及び本市のビジネス環境のPR等の企業誘致活動を実施する。	・企業等が本市の立地支援策やビジネス環境に関する情報を入手し、市内立地を検討する。	・本市へ本社、支社等の拠点を設置する。	・本市全体の税収増。 ・本市全体の雇用増。		
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)		
	活動の指標	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
企業訪問・面談回数	目標	800	800	800	R5年度	
	実績	542	943		50	R5年度
	達成率	67.8%	117.9%		100.0%	128.0%
進出した企業による雇用者数	目標	3,000	3,000	3,000	R5年度	
	実績	665	2,600		3,000	R5年度
	達成率	22.2%	86.7%		22.2%	86.7%

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 再 6-2-1 -	施策成果指標 ○成長分野・本社機能の進出企業数(50社/年) ○進出した企業による雇用者数(3,000人/年)
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている	
施策	成長分野の企業や本社機能の立地の促進	
事業群	企業や本社機能の立地促進	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
	歳出合計	3,044,995	
歳入	特定財源	2,581,008	
	一般財源	463,987	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度	R2	R4	
歳出合計	4,702,037	2,833,233	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	579,636	2,833,233

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	重点分野の企業誘致推進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局企業誘致課	根拠法令	福岡市企業立地促進条例及び同条例施行規則		地域経済を活性化させ、本市の国際競争力を高めるため、本社機能や外資系企業、クリエイティブ産業などの、成長性が高い分野の企業誘致を推進するとともに、クリエイティブ人材の市内企業への就職・移住支援等を開始した。
開始年度	平成16年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	成果(終期・継続検討)
	国内外の企業等			
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	国内企業に対しては、外国企業・投資誘致センター運営、ジェットロ等関連団体との連携を通じ、外国企業等への情報発信や連絡・情報提供等を実施し、本市への進出をサポートした。また、在京の大使館等を訪問し、福岡市のビジネス環境や支援策の説明、情報交換を実施し、ネットワークづくりを行った。	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか
	本市への本社や支社等の拠点設置を推進し、定着させる。			

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)								
	・企業訪問・企業面談により、立地支援策等の情報提供及び本市のビジネス環境のPR等の企業誘致活動を実施する。	・企業等が本市の立地支援策やビジネス環境に関する情報を入手し、市内立地を検討する。	・本市へ本社、支社等の拠点を設置する。	・本市全体の税収増。 ・本市全体の雇用増。								
活動の指標	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
	クリエイティブ企業への企業訪問・面談回数	年度	R2年度	R3年度	R4年度		最終年度	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
	目標		300	300		R5年度	成長分野・本社機能の進出企業数	目標	50	50		R5年度
	実績		245	378	300	300		実績	50	64	50	55
	達成率		81.7%	126.0%				達成率	100.0%	128.0%		
	目標					R年度	進出した企業による雇用者数	目標	3,000	3,000		R5年度
	実績							実績	665	2,600	3,000	3,000
	達成率							達成率	22.2%	86.7%		

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 6-2-1 再 -	施策成果指標 ○成長分野・本社機能の進出企業数(50社/年) ○進出した企業による雇用者数(3,000人/年)
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている	
施策	成長分野の企業や本社機能の立地の促進	
事業群	企業や本社機能の立地促進	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
	歳出合計	8,428	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	8,428	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R2	R4
	歳出合計	9,429	13,049
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	9,429	13,049

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	外資系金融機関等の誘致推進			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か					
所管課	経済観光文化局企業誘致課	根拠法令	なし		令和2年9月、福岡への国際金融機能の誘致に向けて、産学官が一体となった推進組織「TEAM FUKUOKA」が設立(市長は副会長に選任)され、「資産運用業」「フィンテック」「BCP対応業務」を重点的に誘致することとしており、TEAM FUKUOKAの一員として誘致活動等の取り組みを開始した。					
開始年度	令和3年度	行政計画	なし							

事業概要

対象	誰(何)を対象として行うのか 外資系金融機関等	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 福岡市を広くPRするため、海外のフォーラムでプロモーション等を行うとともに、アンバサダーのネットワークを活用した誘致活動を実施	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 誘致活動不要で、外資系金融機関等が本市へ拠点を設立し、定着する状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 国際金融都市としての福岡市の優位性が認知され、外資系金融機関等が本市へ拠点を設立し、定着させる。				

ロジックモデル・指標の達成度

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	・外資系金融機関等を対象としたプロモーション ・アンバサダーのネットワークを活用した誘致活動	・国際金融都市としての福岡市の優位性が認知される ・外資系金融機関等が福岡への拠点設立を検討する	・福岡へ拠点を設立	・雇用者数増、税収増
	活動の指標	成果の指標(KPI)		

指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)
		R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
プロモーション参加企業数	目標	—	5	10	R5年度	7
	実績	—	3		55	
	達成率	—	60.0%			
	目標				R 年度	
	実績					
	達成率					

指標の内容		年度	実績		目標	
			R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
成長分野・本社機能の進出企業数 (国際金融関連企業は内数を含む)	目標		50	50	50	R5年度
	実績		50	64		55
	達成率		100.0%	128.0%		
進出した企業による雇用者数 (国際金融関連企業は内数を含む)	目標		3,000	3,000	3,000	R5年度
	実績		665	2,600		3,000
	達成率		22.2%	86.7%		

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主 再	6-2-1 —	施策成果指標 ○成長分野・本社機能の進出企業数(50社/年) ○進出した企業による雇用者数(3,000人/年)
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	成長分野の企業や本社機能の立地の促進		
事業群	企業や本社機能の立地促進		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

		事業費(千円)		
令和3年度決算額(見込額)				
歳入	歳出合計	655		
	特定財源	323		
	一般財源	332		
前年度決算額・翌年度予算額				
		年度	R2	R4
歳入	歳出合計	0		24,261
	特定財源	0		9,584
	一般財源	0		14,677

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	国際金融機能誘致推進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局国際金融機能誘致担当	根拠法令	なし		令和2年9月、福岡への国際金融機能の誘致に向けて、産学官が一体となった推進組織「TEAM FUKUOKA」が設立(市長は副会長に選任)され、「資産運用業」「フィンテック」「BCP対応業務」を重点的に誘致することとしており、TEAM FUKUOKAの一員として誘致活動及び投資の呼び込みに向けた地場企業の成長支援に取り組む。
開始年度	令和3年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか ①外資系金融機関等 ②地場企業	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ①TEAM FUKUOKAのホームページによる情報発信 ②国際金融に特化したワンストップサポート窓口「Global Finance Centre」の運営 ③高度なビジネススキルを有する外部人材を企業へ派遣し、経営課題の解決等を行う成長支援プログラムの実施や、独自技術を持った研究開発型スタートアップ企業に対し、事業の推進に係る経費等を助成	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 誘致活動不要で、外資系金融機関等が本市への拠点を設立し、定着する状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ①福岡への拠点設立に関する相談に対応できている。 ②福岡の経済を牽引する企業へと成長している。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウト (どんな活動を行うのか)	②結果アウト (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウト (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウト (その結果、市としてどうなるのか)																				
	・ワンストップ相談窓口の設置 ・地場企業に対する成長支援事業の実施	・外資系金融機関等が福岡への拠点設立を検討する ・プログラム参加企業が経営課題を解決する	・福岡へ拠点を設立 ・プログラム参加企業が福岡の経済を牽引する企業へと成長	・雇用者数増、税収増																				
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)																				
活動の指標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>-</td> <td>150.0</td> <td></td> <td>R5年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>-</td> <td>172.0</td> <td>160.0</td> <td>170.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>114.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	目標	-	150.0		R5年度	実績	-	172.0	160.0	170.0	達成率	-	114.7%					成果の指標(KPI)
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																				
目標	-	150.0		R5年度																				
実績	-	172.0	160.0	170.0																				
達成率	-	114.7%																						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R5年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>50.0</td> <td>50.0</td> <td>50.0</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>128.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	目標				R5年度	実績	50.0	50.0	50.0	50.0	達成率	100.0%	128.0%					成果の指標(KPI)
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																				
目標				R5年度																				
実績	50.0	50.0	50.0	50.0																				
達成率	100.0%	128.0%																						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R5年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3,000.0</td> <td>3,000.0</td> <td>3,000.0</td> <td>3,000.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>22.2%</td> <td>86.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	目標				R5年度	実績	3,000.0	3,000.0	3,000.0	3,000.0	達成率	22.2%	86.7%					
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																				
目標				R5年度																				
実績	3,000.0	3,000.0	3,000.0	3,000.0																				
達成率	22.2%	86.7%																						

基本計画		事業区分	重点
施策コード	主 6-2-1 再 -	施策成果指標	○成長分野・本社機能の進出企業数(50社/年) ○進出した企業による雇用者数(3,000人/年)
分野別目標			
施策			
事業群			
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計			10,926
歳入	特定財源		2,266
	一般財源		8,660
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		0	13,689
歳入	特定財源	0	3,423
	一般財源	0	10,266

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	企業間取引デジタル化推進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局経営支援課	根拠法令	なし		これまで福岡市ではキャッシュレスの推進により、事業者と消費者の間のデジタル化を推進してきたが、事業者間の取引については、いまだにFAXによる受発注等が多く、デジタル化がなされておらず、労働生産性の低下を招く要因のひとつと考えられるため、その課題を解決する必要があることによる。
開始年度	R3	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 市内中小企業者	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか IT専門家の派遣(申込企業98社に対して243回IT専門家派遣を実施)のほか、企業間取引のデジタル化をテーマとしたセミナーの開催。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 企業間取引をデジタル化している企業割合90%
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 市内中小企業の労働生産性の向上を目的とする。国の実証によれば、企業間取引のデジタル化を行うことで、総労働時間のおよそ6%の削減効果がある。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)									
	セミナー等を通じた広報活動によって、企業間取引をデジタル化した場合の業務効率化の効果等について周知し、市内中小企業に対して企業間取引デジタル化の意識啓発を行う。	IT専門家を市内中小企業に派遣し、受発注業務を主とした企業間取引のデジタル化を支援する。	業務効率化によって削減できた労働時間を、営業等の付加価値を上げる取組みに充てることで生産性の向上を図ることができる。	市内各企業の労働生産性が上がることにより、市内総生産の増加が期待できる。									
	活動の指標	実績	目標	実績	目標								
	指標の内容	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	R年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	R年度	
	専門家派遣回数	目標	-	240	300回	-	R年度	企業間取引をデジタル化している企業割合 事業開始前: 46.0% (令和2年度)	目標	-	55.0	70.0	R5年度
		実績	-	243		-	-	実績	-	67.0	90.0	90.0	
		達成率	-	101.3%		-	-	達成率	-	121.8%		-	
		目標				R年度	R年度	目標				R年度	
		実績						実績					
		達成率						達成率					

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	6-3-1	施策成果指標 なし
	再	-	
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化		
事業群	中小企業の振興		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計		7,766	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	7,766	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		0	10,890
歳入	特定財源	0	
	一般財源	0	10,890

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	商工金融資金・金融対策、経営支援施策普及事業、金融事務費、経営相談・診断助言事業	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管課	経済観光文化局経営支援課		根拠法令	なし
開始年度	昭和24年		行政計画	なし

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市内で事業を営む中小企業者	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 制度改正の実施 ・新型コロナウイルス感染症対策として経営安定化特別資金(特例枠)の保証料を市が全額負担(通常0.80%⇒0.00%)⇒3年度においても継続実施 ・全庁的な押印見直しにあわせて、セーフティネット保証認定申請書を含む福岡市商工金融資金制度要綱にて様式を定めている書類の押印を廃止し、利用者の利便性を向上させた	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 中小企業は、大企業と比較すると自己資金が少なく信用力が低く、金融機関からの融資など新たな資金調達が多いため、継続して支援を実施していく。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 長期・低利・固定金利の融資制度で金融機関からの資金調達を支援することにより、中小企業者の経営基盤の強化を図るとともに、経営相談や専門家派遣などの支援により、経営の安定化や事業の拡大等を図る。		十分な融資枠の確保: 令和3年度融資枠約5,854億円 経営支援施策普及事業の実施: 市内事業所8,625件※2~3年度は郵送により実施 相談窓口の運営: 相談件数7,234件(経営、金融、返済、受発注の全相談合計)		

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																																
	・融資制度の充実強化 ・十分な融資枠の確保 ・経営支援施策普及事業 ・相談窓口の充実	・市内中小企業者の資金調達の円滑化	・資金繰DIの改善継続 ・倒産件数減少の継続	・中小企業の振興、経済の活性化																																																																																
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)																																																																																
活動の指標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1,518</td> <td>2,446</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	目標	-	-	-	R年度	実績	1,518	2,446	-	-	達成率	-	-	-	-	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>5,000</td> <td>8,000</td> <td>8,000</td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>6,523.0</td> <td>8,625.0</td> <td>8,000</td> <td>8,000</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>130.5%</td> <td>107.8%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	目標	5,000	8,000	8,000	R年度	実績	6,523.0	8,625.0	8,000	8,000	達成率	130.5%	107.8%	-	-	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	目標	-	-	-	R年度	実績	-	-	-	-	達成率	-	-	-	-	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	目標	-	-	-	R年度	実績	-	-	-	-	達成率	-	-	-	-
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																																																																
目標	-	-	-	R年度																																																																																
実績	1,518	2,446	-	-																																																																																
達成率	-	-	-	-																																																																																
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																																																																
目標	5,000	8,000	8,000	R年度																																																																																
実績	6,523.0	8,625.0	8,000	8,000																																																																																
達成率	130.5%	107.8%	-	-																																																																																
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																																																																
目標	-	-	-	R年度																																																																																
実績	-	-	-	-																																																																																
達成率	-	-	-	-																																																																																
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																																																																
目標	-	-	-	R年度																																																																																
実績	-	-	-	-																																																																																
達成率	-	-	-	-																																																																																

基本計画		事業区分	重点
施策コード	主 6-3-1 再 -	施策成果指標	全国の中小企業従業者数に占める福岡市の割合 ⇒令和6年度: 1.50%
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化		
事業群	中小企業の振興		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)		
令和3年度決算額(見込額)		
	歳出合計	252,589,565
歳入	特定財源	251,919,456
	一般財源	670,109
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	R2 R4
	歳出合計	268,707,160 199,802,577
歳入	特定財源	268,170,742 199,461,057
	一般財源	536,418 341,520

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	スタートアップ支援施設運営事業、スタートアップ支援施設整備事業、スタートアップ支援施設連携事業			背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成24年のスタートアップ都市宣言や平成26年の国家戦略特区の指定を経て、創業の裾野を広げた福岡市では、ロールモデルという成功事例を生み出すために、起業家だけでなく、技術や資金、専門家、支援者、ネットワークなどが揃ったエコシステムを構築し化学反応を起こすような施設を運営するために平成29年4月に官民共働型のスタートアップ支援施設「Fukuoka Growth Next」を開設。
所管課	経済観光文化局創業支援課	根拠法令	なし	
開始年度	平成29年度	行政計画	なし	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 創業して間もない企業、個人	実施内容(手段) 令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか Fukuoka Growth Nextを中心として、以下の事業を展開 ○新しい生活様式における支援の推進 コロナ禍においても、オンラインを活用したイベントを実施するなど、スタートアップ支援を推進 ○ビジネスマッチング 地場企業や大手企業とスタートアップとの連携や投資を呼び込むためのピッチコンテストやビジネスマッチングを実施 ○成長支援プログラム スタートアップやエンジニア、デザイナーの成長に資するセミナーや勉強会を実施 開設日：平成29年4月12日（リニューアルオープン：令和元年5月31日） 令和3年度の実績 ビジネスマッチング件数：26,040回 雇用増加者数：398人 投資件数及び投資額：26社約78億円	成果(終期・継続検討) どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか KPIの状況に関わらず当面の間は継続。ただし、市内のスタートアップエコシステムがより充実し、本事業と同様な支援が可能な民間事業者が台頭する等、本事業を終了してもスタートアップの高い成長が期待できる場合は、事業終了も検討する。
	事業目的 対象をどのような状態にしたいのか 地場企業との連携や資金調達の拡大などにより、スタートアップ企業が成長する。		

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウト (どんな活動を行うのか) 成長支援プログラムやセミナー・ピッチ等のイベントを定期的実施する。	②結果アウト (活動の結果、どうなるのか) 企業同士やVCとのビジネスマッチング件数が増加する。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) 販路拡大や投資拡大により、スタートアップ企業が成長する。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 福岡市から新たな価値やイノベーションが生まれ、雇用創出や地域経済が発展する。
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)
活動の指標	ビジネスマッチング件数	R2年度 14,000.0 R3年度 14,000.0 R4年度 14,000.0 最終年度 R5年度 実績 24,322.0 26,040.0 達成率 173.7% 186.0%	14,000.0	スタートアップ企業への総投資額(千円)
		R2年度 4,000,000.0 R3年度 4,000,000.0 R4年度 4,000,000.0 最終年度 R5年度 実績 6,100,000.0 7,800,000.0 達成率 152.5% 195.0%		

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 7-1-1 再 -	施策成果指標 入居企業の資金調達金額 ⇒R3n~R5n:20社40億/年
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している	
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり	
事業群	「グローバル創業都市・福岡」の実現	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)		
令和3年度決算額(見込額)		
歳出合計	106,754	
歳入	特定財源	0
	一般財源	106,754
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R2	R4
歳出合計	177,122	194,584
歳入	特定財源	0
	一般財源	177,122

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	スタートアップ拠点都市形成事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局創業支援課	根拠法令	なし		令和元年6月に内閣が設置した統合イノベーション戦略推進会議にて、今後のスタートアップ施策に関する戦略「Beyond Limits. Unlock Our Potential.～世界に伍するスタートアップ・エコシステムの拠点形成戦略～」が発表。
開始年度	令和2年度	行政計画	なし		福岡市では平成24年からスタートアップ支援に力を入れているが、ユニコーン創出のため、大学発スタートアップの創出・支援が特に重要視されていることから、国の施策の機を捉え、福岡市の目標達成に向けた取り組みをさらに強化・加速させる。

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか ・市内スタートアップ企業 ・スタートアップ支援者	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○福岡スタートアップ・コンソーシアムの運営 国や関係機関との調整や幹事会の開催、コンソーシアム内における情報共有・連絡等を実施。 ○研究開発型スタートアップ成長支援補助金 研究開発型スタートアップ企業に対し、事業の推進に係る経費等を助成。 ○アクセラレーションプログラム(国が実施) 成長性のあるスタートアップ企業に対し、海外トップアクセラレーターによるアクセラレーションプログラムを実施し、成長促進や世界のトッププレイヤーとの繋ぎを実施。なお、福岡のコンソーシアムからは、応募したスタートアップ企業に対して推薦・優先枠の選定をおこなった。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 福岡流エコシステムが確立され、継続的にスタートアップが創出される状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・市内スタートアップ企業 →ユニコーン企業への成長を促進する。 ・スタートアップ支援者 →支援者間の連携を強化し、福岡流エコシステムを確立する。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	・研究開発型スタートアップ企業を公募 ・幹事会の開催、スタートアップ関係の情報共有等	・評価委員会を経て、研究開発型スタートアップ企業の事業の推進に係る経費等を助成する。 ・スタートアップ支援者側の関係が強化される。	・スタートアップ企業の研究開発が更に進む。 ・スタートアップ支援者が連携し、効果的に支援が可能になる。	・研究開発型スタートアップ企業の革新的な技術が事業化される。 ・福岡のスタートアップエコシステムから継続的にスタートアップが創出される。
	活動の指標	成果の指標(KPI)	成果の指標(KPI)	成果の指標(KPI)

指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)
		R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
研究開発型スタートアップ成長支援補助金採択件数	目標	2.0	2.0	-	R 年度	-
	実績	2.0	2.0			
	達成率	100.0%	100.0%			
ユニコーン企業の創出	目標			5.0	R 年度	5.0
	実績					
	達成率					
企業価値 10 億円以上のスタートアップ(社)	目標			100.0	R 年度	100.0
	実績					
	達成率					

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主 再	7-1-1 -	企業価値10億円以上のスタートアップ R1n(現状):32社 →R6n:100社以上
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している		
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり		
事業群	「グローバル創業都市・福岡」の実現		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳入	歳出合計	8,740	
	特定財源	0	
	一般財源	8,740	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R2	R4
	歳出合計	6,410	10,871
	特定財源	0	0
	一般財源	6,410	10,871

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	スタートアップカフェの運営 (福岡市開業ワンストップセンター、国家戦略特区推進に関する総合経費)	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か スタートアップ都市づくりの拠点として、スタートアップカフェを開設し、スタートアップの裾野を拡大するための場の提供、及び様々な支援団体のネットワークハブ機能を提供。	
所管課	経済観光文化局創業支援課		根拠法令	なし
開始年度	平成26年度		行政計画	なし

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 創業予定者、創業して間もない企業、個人	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか スタートアップに関する情報提供・相談・交流機能を提供するとともに、スタートアップ企業とそこで働きたい人材をマッチングする人材マッチングセンター(H27nd~)や法人設立に必要な各種手続きをオンラインで行うことができる開業ワンストップセンター(R1nd~)を運営。 また、コロナ下においてオンラインも活用して相談やイベントに対応した。 事業実施場所:福岡市中央区大名2丁目6番11号 Fukuoka Growth Next 1F外 (受託事業者:カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社) 開設日:平成26年10月11日 令和3年度実績:相談対応件数3,204件 創業関連イベント開催数/参加人数:107回/1,611名 法人設立数:263件	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 起業の裾野が広がり、国内外の多くの起業家が交流・協業する中で新しいビジネスが生まれ、グローバル展開する企業が増加することを通じて、アジアNo.1のスタートアップ都市として国内外に広く認知された状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか スタートアップの裾野を広げ、創業から人材確保までを一体的にサポートすることで、多くの創業者が新たなビジネスを創出することを通じ、雇用が生まれ、地域経済が活性化されることで、都市の成長が促進される。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	「スタートアップカフェ」を開設し、コーディネーターによる相談対応やネットワーク構築、各種創業関係イベントを実施する。	相談対応件数が増加する。	スタートアップカフェのネットワークを活用し、多くの創業者を輩出する。	輩出された創業者の新たなビジネスを通じて、雇用が創出され、地域経済が活性化される。	
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	
活動の指標	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
相談対応件数 (開業ワンストップセンター及び人材マッチングセンターでの相談を含む)	目標	1,900.0	2,500.0	R 年度	R 年度
	実績	3,231.0	3,204.0	2,500.0	-
	達成率	170.1%	128.2%		
	目標			R 年度	R 年度
	実績				
	達成率				

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 7-1-1	施策成果指標
	再 -	
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している	
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり	
事業群	「グローバル創業都市・福岡」の実現	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
	歳出合計	78,835	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	78,835	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R2	R4
	歳出合計	79,367	84,374
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	79,367	84,374

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	外国人創業活動促進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局創業支援課	根拠法令	なし		《特区制度 H27.12～》国家戦略特区の規制緩和の一つとして、外国人が創業する際の在留資格(経営・管理)の取得に関する規制緩和について、法令関係が改正され施行された。
開始年度	平成27年度	行政計画	なし		《経済産業省制度 H31.1～》外国人起業家が在留資格「特定活動」を活用し、起業準備活動を行うための制度がH30.12から開始され、福岡市はH31.1に経済産業省から全国で初めて実施団体に認定された。

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市で起業を志す外国人	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○外国人への広報 外国人へ本事業を周知する。 ○事業計画の確認、活動確認証明書の交付 ・外国人の事業計画が上陸後の一定期間内に要件を満たす見込みがあるのかなどについて、中小企業診断士に診断を依頼し、市が確認を行う ・見込みのある外国人に対して、市が活動確認証明書を交付する。 ○事業計画の進捗確認 ・上陸後の一定期間中、事業計画の進捗を確認し、状況に応じてコンシェルジュ等が支援を行う。 ・進捗が良好でない場合は、本国に帰国を促す。 ○スタートアップカフェ(主にグローバル・スタートアップ・センター:GSC)を中心に、外国人の起業相談の受付や支援を実施 ・コンシェルジュが事業化の相談を受け、必要に応じてネットワークにつなぐ。 ○コロナ下において、GSCと連携し、国スキームを活用しながら、外国人起業家の入国をサポートした。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 外国人起業家が集積すること、また、外国人起業家と市内スタートアップの交流・協業を通して新しいビジネスが生まれ、グローバル展開する企業が増加することを通じて、福岡市がアジアNo.1のスタートアップ都市として国内外に広く認知された状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 海外から人材の集積や投資の促進を図り、外国人起業家のビジネスを通じてグローバルに展開をする企業が増えることで、「グローバル創業都市・福岡」を実現するとともに、新たな雇用が生まれ、地域経済が活性化されることで、都市の成長が促進される。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) ・起業を志す外国人へ事業の周知を行う。 ・起業を具体的に予定している外国人の事業計画を確認する。	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) 本事業を利用して日本で企業しようとする外国人起業家が増える。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) 市内で起業する外国人が増える。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 外国人起業家のビジネスを通じてグローバルに展開をする企業が増えることで、海外から人材が集積し、新たな雇用が創出され、地域経済が活性化される。
	活動の指標	成果の指標(KPI)		

指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)
	年度	R2年度	R3年度	R4年度	
申請件数	目標	20.0	20.0	20.0	R 年度
	実績	11.0	9.0		-
	達成率	55.0%	45.0%		
	目標				R 年度
	実績				
	達成率				

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 7-1-1 再 8-5-1	申請件数 R1n(現状): 18 件 ⇒R6n: 20 件以上
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している	
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり	
事業群	「グローバル創業都市・福岡」の実現	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
	歳出合計	3,018,995	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	3,018,995	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R2	R4
	歳出合計	4,490	9,893
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	4,490	9,893

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	【宿泊税】文化芸術を活用した賑わい創出事業			背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 2020年11月に開催予定のアジア太平洋サミットに合わせ、インバウンドなどをはじめとする旅行者を対象として、地域の集客、消費拡大を図るため、事業を開始した。
所管課	経済観光文化局文化振興部文化振興課	根拠法令	なし	
開始年度	R2年度	行政計画	福岡市文化芸術振興計画	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 市民及びインバウンド等の観光客	実施内容(手段) 令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 大型MICEに合わせて、博多旧市街の寺社や公園等をメイン会場とし、屋外に大型立体アート作品等を設置することにより、博多旧市街の魅力向上を図り、同エリアにおける国内外からの旅行者等の周遊を促し、集客、消費拡大を図る。 ※令和3年度については、コロナの影響で中止となった。	成果(終期・継続検討) どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 大型MICEの開催に合わせた事業のため、期間終了により事業は終了する。
	事業目的 対象をどのような状態にしたいのか すべての市民が心豊かに文化芸術を楽しみ、それが観光客にとっての楽しみにもつながるような、文化芸術の環境を整備する		

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 博多旧市街の寺社や公園等をメイン会場とし、屋外に大型立体アート作品等を設置。	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) アート展示会場に市民や観光客が周遊・回遊し、賑わいが創出。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ・会場周辺の飲食店等での消費拡大 ・国内外に福岡市のアートに関する魅力が伝わる。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) ・地域経済の活性化 ・都市の魅力向上																																																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> <th rowspan="2">成果の指標(KPI)</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">来場者数</td> <td>目標</td> <td>-</td> <td>-</td> <td rowspan="3">45,000人</td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>-</td> <td>コロナにより事業中止</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	来場者数	目標	-	-	45,000人	R年度	実績	-	コロナにより事業中止	-	達成率	-	-	-		目標				R年度	実績					達成率					<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> <th rowspan="2">成果の指標(KPI)</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">/</td> <td>目標</td> <td>-</td> <td>-</td> <td rowspan="3">-</td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	/	目標	-	-	-	R年度	実績	-	-	-	達成率	-	-	-		目標				R年度	実績					達成率			
指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)																																																																														
	年度	R2年度	R3年度	R4年度		最終年度																																																																													
来場者数	目標	-	-	45,000人	R年度																																																																														
	実績	-	コロナにより事業中止		-																																																																														
	達成率	-	-		-																																																																														
	目標				R年度																																																																														
	実績																																																																																		
	達成率																																																																																		
指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)																																																																														
	年度	R2年度	R3年度	R4年度		最終年度																																																																													
/	目標	-	-	-	R年度																																																																														
	実績	-	-		-																																																																														
	達成率	-	-		-																																																																														
	目標				R年度																																																																														
	実績																																																																																		
	達成率																																																																																		

事業区分		重点
基 本 計 画		
施策コード	主 7-2-1 再 -	施策成果指標 なし
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している	
施策	創造的活動の基盤となる文化芸術の振興	
事業群	創造活動を担い、支える人材の育成と活動の支援	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)	
令和3年度決算額(見込額)	
歳出合計	112
歳入	特定財源 0
	一般財源 112
前年度決算額・翌年度予算額	
年度	R2 R4
歳出合計	- 18,023
歳入	特定財源 - 0
	一般財源 - 18,023

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	クリエイティブ関連産業の振興、eスポーツビジネス創出事業、音楽都市振興事業（商工業振興費）		事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局コンテンツ振興課	根拠法令	なし
開始年度	平成24年度	行政計画	なし
			背景 本市には、都市規模を上回るクリエイティブ関連産業の集積があり、今後も本市の成長エンジンとして地域経済を牽引していくことが期待される中、これらの関連産業について、ゲーム、映像、ファッション、音楽、デザイン等業種に応じた産業振興が必要となるため。

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	・市内クリエイティブ関連企業 (ゲーム、映像、ファッション、音楽、デザイン、eスポーツ) ・個人のクリエイター ・クリエイティブ関連分野を専攻している学生
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	・企業、個人クリエイターの販路が拡大、収益増加している。 ・クリエイティブ関連企業への就職希望者が就労できている。

実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	○ゲーム ゲーム産業分野では、産学官による福岡ゲーム産業振興機構を通じ、ゲーム業界の人材育成・確保に取り組んだ。 ○映像 映像分野では、地場映像産業の活性化に向け、民間企業等との連携を実施した。 ○ファッション ファッション産業分野では、地場ファッション産業の活性化に向け、民間企業等との連携を実施した。 ○音楽 音楽分野では、福岡音楽都市協議会や福岡ミュージックマンス主催者会などの団体と連携して、音楽都市としてのブランディングを図るとともに、関連産業の振興を図った。 ○デザイン デザイン産業分野では、福岡県産業デザイン協議会に参画し、デザイン関連産業の振興を図った。 ○eスポーツ eスポーツ分野では、福岡eスポーツ協会に参画し、eスポーツを通じた新たなビジネスの創出・拡大を目指し、ビジネスマッチング及びeスポーツの認知度向上を図った。

成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか
	事業目的に向けた取組みが行政主導ではなく、民間主体で自発的に行われるような環境が醸成され、かつ行政で解決すべき課題がなくなった際に事業を終了するもの。

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	1.人材育成事業(インターンシップ、コンテスト、セミナー等) 2.販路拡大事業(展示商談会出展支援等) 3.イベントの開催 4.情報発信事業	・就労希望者が地場企業の必要としているスキルが身に着く。 ・地場企業が国内外のバイヤーと商談できる。 ・イベント等でのクリエイターの発表の場ができる。 ・国内外での事業認知度が上がる。	・人材確保における企業と就労希望者とのミスマッチングが少なくなる。 ・地場企業が販路拡大・収益増加。 ・情報発信により福岡ブランドが定着する。	本市にクリエイティブ関連企業が多数集積・ハブ化し、地元学生の就職の受け皿として十分な状態となるとともに、同産業が地域経済を牽引している状態。		
活動の指標	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)		
	指標の内容	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
市内ゲーム関連企業 従業者数(人)	目標				R4年度	
	実績		2,088	2,294	2,500	2,500
	達成率		104.4%	99.7%		
R年度	目標				R年度	
	実績					
	達成率					

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 7-3-1 再 -	施策成果指標 クリエイティブ関連事業所数 (2022年目標値:2,900事業所)
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している	
施策	個人の才能が成長を生む創造産業の振興	
事業群	クリエイティブ関連産業の振興	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)		
令和3年度決算額(見込額)		
歳出合計	31,126	
歳入	特定財源	10,797
	一般財源	20,329
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R2	R4
歳出合計	16,500	22,303
歳入	特定財源	756
	一般財源	15,744
		17,435

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	クリエイティブ・エンターテインメント都市づくり推進事業、クリエイティブビジネスマッチング促進事業		事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	経済観光文化局コンテンツ振興課	根拠法令	なし
開始年度	平成24年度	行政計画	なし
		背景 市内のクリエイティブ関連企業からは、分野を超えた交流の場やイベント等を通じた情報発信、スタートアップ支援のニーズが高い。クリエイティブ・エンターテインメント分野は、福岡市の強みを活かせる分野であり、時代を担う産業分野として積極的に振興を図る。	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	成果(終期・継続検討)
	<ul style="list-style-type: none"> 市内クリエイティブ関連企業(ゲーム、映像、ファッション、音楽、デザイン) 個人のクリエイター クリエイティブ関連分野を専攻している学生 			
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか			
<ul style="list-style-type: none"> 異業種の枠を超え、企業、クリエイターが活発に交流している。 またその交流から、新たなビジネス機会、価値が生まれている。 				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウト (どんな活動を行うのか)	②結果アウト (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウト (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウト (その結果、市としてどうなるのか)								
	<ul style="list-style-type: none"> ○アジアパーティの開催 ○クリエイティブ福岡推進協議会(クリエイティブ・ラボ・フクオカ)の事業実施 ・セミナー・交流会等の開催 ・情報発信事業(ホームページ等の運営) ・クリエイティブフェスタの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等でクリエイターの発表の場を提供する。 ・イベント等で市民の方々がクリエイティブ関連分野の最新技術に触れる機会を提供する。 ・企業、クリエイターとの情報交換やネットワーク構築の場を提供する。 ・情報発信を通じて事業の認知度が向上、事業の参加者が増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、クリエイターにおいて異業種間も含めた交流が活発化する。 ・アジアパーティの時期に国内外のクリエイターが福岡に集まる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市にクリエイティブ関連企業が多数集積・ハブ化し、地元学生の就職の受け皿として十分な状態となるとともに、同産業が地域経済を牽引している状態。イベント等を通じた国内・海外への情報発信を通して「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」のブランディングができています。 								
活動の指標	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
		年度	R2年度	R3年度	R4年度			最終年度	年度	R2年度	R3年度	R4年度
	セミナー・交流会の開催数	目標	5	5		R 年度	アジアパーティの参加者数	目標	465,000	465,000	465,000	R 年度
		実績	5	3	5	-		実績	300,000	110,000		-
		達成率	100.0%	60.0%				達成率	64.5%	23.7%		
		目標				R 年度		目標				R 年度
		実績						実績				
		達成率						達成率				

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 7-3-2 再 -	施策成果指標 クリエイティブ関連事業所数(2022年目標値:2,900事業所)
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している	
施策	個人の才能が成長を生む創造産業の振興	
事業群	エンターテインメント都市づくり	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計	85,312		
歳入	特定財源	0	
	一般財源	85,312	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度	R2	R4	
歳出合計	74,932	87,345	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	74,932	87,345

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	アジアビジネス促進・支援事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管課	経済観光文化局国際経済課	根拠法令	なし		大企業と異なり、国際ビジネスについて独自の展開や情報の取得が困難な地場中小企業の海外展開を支援するため。	
開始年度	H21	行政計画	なし			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 地場中小企業	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○福岡アジアビジネス支援委員会(福岡市、福岡商工会議所、ジェトロ福岡、福岡貿易会)の活動を通して、下記事業を実施(共催事業含む) ・セミナー開催: 5回 ・展示会・物産展参加支援: 1回 ○福岡フードビジネス協議会(下記事業を実施) ・展示会への共同出展: 3回(Food EXPO Kyushu2021、FOOD STYLE Kyushu2021、FOODEX2022) ・オンライン勉強会: 1回 ・海外イベントへの協力(Bordeaux Sake Challenge 2021/Japan Life)	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 国内市場が縮小する中、地場企業の海外販路拡大を支援するため、事業を継続する。 事業の実施方法や内容については、地場企業の海外展開ニーズや海外情勢等を踏まえ、適宜改善を図っていく。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・成長著しいアジアへの販路拡大や外国企業との連携強化。 ・福岡フードビジネス協議会を通じて、福岡・九州の地場食品製造企業がまとまって輸出拡大を進め、福岡・九州の食の海外でのブランド化を図る。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	・バイヤーの招聘。 ・展示会(国内・海外)への参加。 ・海外ビジネスに関するセミナー開催。	・海外からのバイヤーを招聘し、地場企業との商談を行う。 ・地場企業がセミナー・展示会に参加する。	・福岡・九州の企業の海外との取引額が増える。 ・福岡市の貿易額(博多港・福岡空港)が増える。	・卸売・小売・物流など市内産業の活性化。 ・人・モノ・情報が集積する福岡のショーケース機能の強化。 ・福岡・九州の食の海外での認知度が高まる。
	活動の指標	成果の指標(KPI)		

指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)
		R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
商談件数	目標	850	620	700	R 年度	
	実績	409	538		-	
	達成率	48.1%	86.8%			
セミナー参加人数	目標	300	300	300	R 年度	
	実績	209	160		-	
	達成率	69.7%	53.3%			

指標の内容	年度	実績		目標	
		R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
博多港・福岡空港における貿易額【億円】	目標	39,000.0	40,500.0	40,000.0	R 年度
	実績	43,664.5	50,319.9		-
	達成率	112.0%	124.2%		
	目標				R 年度
	実績				
	達成率				

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主 再	8-3-1 -	博多港・福岡空港における貿易額 (令和6年度目標値: 4.2兆円)
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	国際的なビジネス交流の促進		
事業群	国際ビジネスの振興		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計		1,749	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	1,749	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		2,379	11,150
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	2,379	11,150